

庄屋 上阪五郎右衛門の家

江戸時代（1603年～1867年）を生きた上阪五郎右衛門（生没年不詳）の住居。五郎右衛門は北木之本の長として、地方の統治者に代わって村の事務を取り仕切り、住民同士の争いを仲裁した。

この家屋は 1847 年に建てられた。当時、厳しい儉約令により、武士でない者が 2 階建てより高い住宅は禁止され、高さは 7.2 メートルまでと制限されていた。このような制限により、富裕な商人たちは、自分たちよりも身分の高い武士たちを凌ぐような、大規模で堂々とした家屋を建てることはできなかった。

庄屋 竹本助六の家

江戸時代（1603年～1867年）の村の長で、代官の代理として統治を担当した竹本助六（生没年不詳）の住居。2 階屋根の両端の下から突き出ている小さな防火壁（うだつ）に注目。この防火壁は、隣接する建物からの延焼を防ぐのに役立つ。その大きさや装飾は、所有者の富を表している。木之本宿のいくつかの町屋に見られる。